

環境会計

2010年度の環境コストの総額は、3,431百万円でした。投資額は638百万円で、水質等汚染防止対策、省エネルギー対策、海外植林等への投資が主な内容です。一方、費用額は2,793百万円で、水質汚濁防止、大気汚染対策などの環境関連の法規制遵守に向けて、各工場において継続的な取り組みが進められていることを示しています。

集計範囲：三菱製紙（本社、研究所、高砂工場、京都工場、八戸工場、白河事業所）、北上ハイテクペーパー、東邦特殊パルプ、旭感光紙  
 対象期間：2010年4月1日～2011年3月31日（八戸工場のみ震災の影響により2010年4月1日～2011年2月28日）  
 集計方法：環境省「環境会計ガイドライン2005年版」に準拠

■ 環境保全コスト

単位：百万円

分類	主な取組の内容	投資額	費用額
1. 事業エリア内コスト		258	2,107
(1) 公害防止コスト		127	1,210
	大気汚染対策	18	352
	水質汚染対策	82	791
	悪臭騒音土壌対策他	27	67
(2) 地球環境保全コスト		128	18
	国内植林	0	18
	海外植林	83	0
	省エネルギー対策	45	0
(3) 資源循環コスト		3	879
	古紙等製品リサイクル処理	3	2
	工場廃棄物削減、再利用、処理等	0	877
2. 上下流コスト	容器包装材料等回収・リサイクル	345	345
3. 管理活動コスト		5	51
	環境教育等	3	1
	環境管理システム構築、認証取得等	2	1
	環境保全運営費等	0	49
4. 研究開発コスト		0	208
5. 社会活動コスト		30	31
	緑化・環境美化等	30	30
	環境情報公開	0	1
6. 環境損傷コスト	公害健康賦課金	0	51
	合計	638	2,793

■ 環境保全効果

環境保全効果の分類	環境パフォーマンス指標(単位)	前期	当期	前期との差
事業活動に投入する資源に関する環境保全効果	有害大気汚染物質(t)	23	25	2
	総エネルギー投入量(原油換算千kl)	687	668	-19
	植林面積(ha)	29,697	31,110	1,413
	工業用水使用量(百万t)	129	122	-7
事業活動から排出する環境負荷および廃棄物に関する環境保全効果	温室効果ガス排出量(千t-CO <sub>2</sub> )	955	900	-55
	COD(t)	7,046	6,725	-321
	廃棄物最終処分量(BDt)	2,337	4,628	2,291
事業活動から算出する財・サービスに関する環境効果	古紙利用率(%)	7	7	0
	回収パレット使用率(%)	66	65	-1
その他環境保全効果	割り箸回収量(t)	14	12	-2

■ 環境保全効果に伴う経済効果

単位：百万円

効果の内容	金額	
収益	回収パレット再利用効果	559
	有効資源化による売却益	11
費用削減	省エネルギーによる費用削減	18
	原料流失防止による費用削減	146
合計	734	

第三者意見

太田 猛彦氏

東京大学名誉教授  
 特定非営利活動法人 日本森林管理協議会代表  
 森林と水の関係を中心に、治山・砂防、森林管理、森林行政、環境行政、流域圏管理、技術者教育等に幅広く取り組まれています。



最大の特徴は、「特徴あるCSR活動」としてFSC森林認証にかかわる諸活動を明確に打ち出したこと

はじめに2011年3月11日に発生した東日本大震災により貴社八戸工場等が甚大な被害を被ったことに対しここからお見舞い申し上げます。幸い北上事業本部及び白河事業所はまもなくフル操業に戻り、巨大津波に襲われた八戸工場も9月末には震災前の生産量の約90%まで回復すると聞き、少し安心しています。大震災を乗り越え、新たな中期経営計画のもと、貴社がますます発展されることをお祈りいたします。

そのような状況の中で昨年度以上に充実したCSRレポート2011を作成されCSRの重要性を見失わなかった貴社の見識に敬意を表します。三菱製紙グループのCSR体制はすでに確立されており、昨年度のレポートは構成も表現もわかりやすくなって、本レポートがそれをほぼ踏襲しているのもうなずけます。

CSRレポート2011の最大の特徴は、三菱製紙グループが実践している「特徴あるCSR活動」としてFSC森林認証にかかわる諸活動を明確に打ち出したことでしょう。FSC森林認証制度は、製品が適切な管理を行っている森林から産出された原材料によって作られていることを証明し、その製品をお客様(顧客)に選んでもらう制度ではありますが、それは単に木材・木材製品の生産・販売等に関わる者が森林の消失・劣化に与していないことを示すだけが目的ではありません。お客様(消費者)に認証製品を選んでもらうことにより市場から非認証製品を締め出し、結果的に適切に管理された森林を拡大することによって世界の森林を消失や劣化の危機から救おうとするものです。つまりFSCは木

材・木製品関係者の共助組織ではなく、世界あるいは人類の公益を推進する組織といえます。したがって、FSCに関わる方々には、できれば積極的に認証製品市場の拡大に努力し、FSCの発展を支援していただきたいのです。

三菱製紙グループはこうした広い公益性を持つFSCの理念を十分理解し、これを活用・支援することは木材関連企業の使命と考えて、本業でのFSC-COC認証の取得、自社所有林でのFSC-FM認証の取得、FSC森林認証材の積極的調達、同森林認証紙の販売等に加え、CSR活動として「FSC森林認証の森」サポーター制度、「森の町内会」支援、「FSCジャパン」支援を展開しています。これらはまさに「特徴あるCSR活動」であり、エコシステムアカデミーでの森林環境教育も含めて必ずや多くの方から評価されると思われます。

CSRレポート2011では他にも大規模災害発生時の対応マニュアルの改訂や化学物質管理指針等の改訂のほか地球温暖化防止の取り組みで前進があったように思います。表現面では環境負荷データの推移をグラフ化し、わかりやすくなりました。一方で自己評価されている構内外注作業時の災害の減少化や環境活動推進のための中長期計画の立案には引き続きご努力をお願いいたします。また、八戸工場から東北電力への電力供給は重要な社会貢献活動になると思いますが、それを可能にした自家発電については、将来、より環境に配慮した方法に移行させることを要望したいと思います。

ご意見をいただいて

今年は国連で定めた国際森林年です。国際森林年は、世界で「持続可能な森林管理・利用」という森林の生長量を超えない範囲での木材を利用していくことの重要性に対する認識を高めることを目的としています。当社グループは持続可能な森林経営が必要と考えてFSC森林認証に取り組んでおりますが、太田先生にこのFSC森林認証にかかわる諸活動をご評価していただいたことを光栄に思います。今回ご指摘いただいた事項につきましては、今後の課題として取り組んでまいります。

当社グループは2011年3月11日に発生した東日本大震災により創業以来の甚大な被害に見舞われましたが、順調に復旧・復興しております。すべてのステークホルダーに感謝申し上げますとともに今後とも三菱製紙グループとして社会への責任を果たしてまいります。



水野 正望  
 三菱製紙株式会社  
 代表取締役 専務執行役員  
 (CSR担当役員)